

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成11年の5,450トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成28年は1,497トンとなりました。

志布志湾海域では、平成19年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成28年は1,496トンとなりました。

2. 平成29年6～8月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に233トンの水揚げで、前年の87%、平年の165%でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に63トンの水揚げで、前年の51%、平年の43%でした。

3. 平成29年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年並で平年を上回り、志布志湾海域は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域では、夏季降水量と秋漁との関係から、前年並で平年を上回ると考えられます。

志布志湾海域では、夏季降水量と秋漁との関係から、好調だった前年・平年を下回ると考えられます。

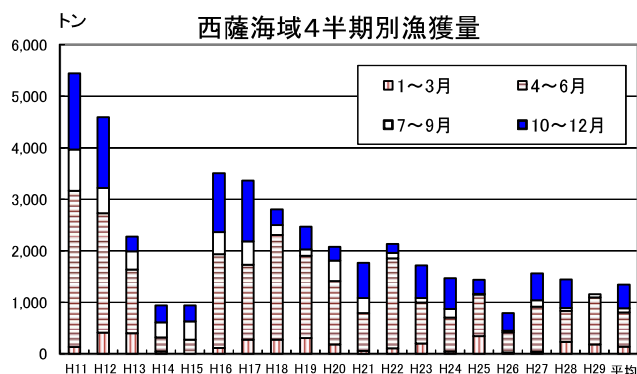
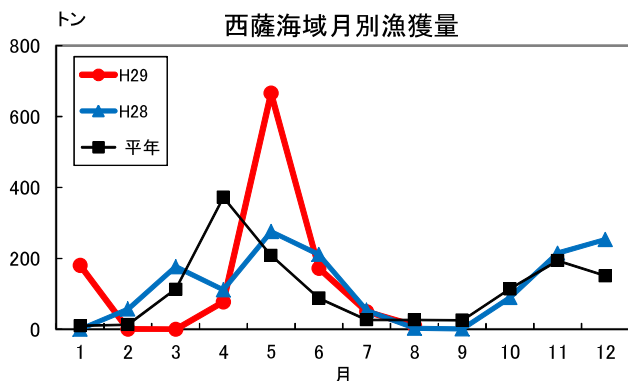


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

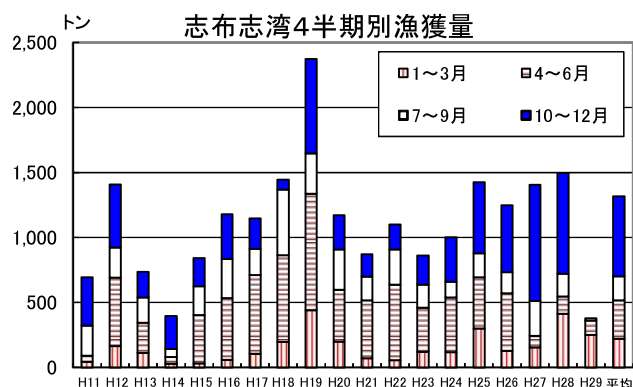
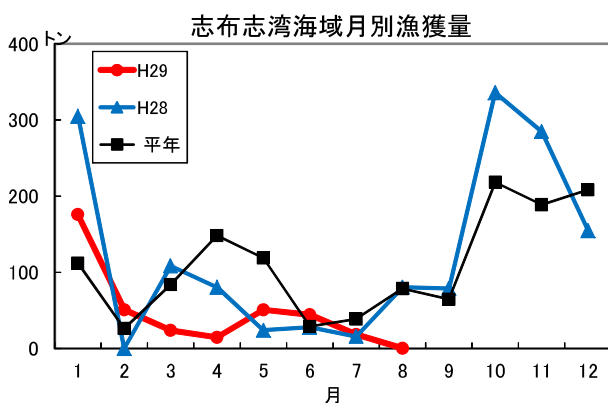


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年(平成24～28年)の平均値(AV)、平成29年8月31日までの水揚げ量を使用